

(第一紙) T30p658c08~

1 瑜伽師地論卷第六十五 弥勒菩薩說 三藏法師玄奘奉 詔訳

2 撰決択分中思所成慧地之一

3 如是已説聞所成慧地決択思所成慧地決

4 択我今当説謂若略説有四種思議一事思

5 議二有非有思議三因果思議四乘思議事

6 思議者略依六事所謂蘊事乃至根事有非

7 有思議者如本地分已説因果思議者如有

8 尋有伺地已説乘思議者如声聞独覺菩薩

9 地已説

10 復次略有二種思議謂惡思思議及善思思議

11 惡思思議者如本地分已説若依黑品謂

12 如有一不避^无明不^无思等而起思議善思

13 思議者与此相違^无知其相如惡思善思如

14 是非法所引法所引非毘奈邪³所引毘奈邪⁴所

15 引非聖善不善善不^无脩⁶心脩⁷不好好黑白

16 引無義引有義下劣微妙有罪^无罪⁸心遠

17 離不^无遠離等当知亦爾

18 復次如世尊言諸聖弟子有知為有非有知

19 為非有此中云何為有云何非有略由二相

20 心知是有何等為二一若生已生現在故心

21 知是有二若実物故事故義故円成実故心

22 知是有云何心知略説実有及仮有相謂若

(第一紙) T30p659a03~

1 諸法不待所余不依所余施設自相心知略

2 説是実有相若有諸法待於所余依於所余

3 施設自相心知略説是仮有相非実物有謂

4 以色等諸蘊想事為待為依施設有我及

5 有情等乃至広説此中色等諸蘊想事是実物

1 无=無【大】 大正蔵に校注なし。

2 奈=奈【大】 大正蔵に校注なし。

3 邪=耶【大】 大正蔵に校注なし。

4 奈=奈【大】 大正蔵に校注なし。

5 邪=耶【大】 大正蔵に校注なし。

6 脩=脩【大】 大正蔵に校注なし。

7 脩=脩【大】 大正蔵に校注なし。

8 无=無【大】 大正蔵に校注なし。

- 6 有我及有情命者生者数取趣等非実物有
- 7 唯是仮有如於色等諸蘊想事仮立我等如
- 8 是即於色等想事仮立色等又於色香味触
- 9 想事仮立飲食車乘瓶衣諸莊嚴具舍軍林
- 10 等又於有為諸法想事仮立生老住^无常種
- 11 子有表^无表得命根衆同分名身句身文身
- 12 異生性和合不和合流転定異相応勢速次
- 13 第時方及数又復唯以諸色不転為待為依
- 14 仮立虚空虚空^无為又唯以名中間不転為
- 15 待為依仮施設有無想等至滅盡等至等
- 16 問於因成道理中依何道理能決定知我非
- 17 実有答不可得故不可見故云何不可得謂
- 18 若内若外若二中間若離諸蘊都不可得云
- 19 何不可見謂如眼等実有諸処各各別有業
- 20 用可見如是所計我別業用都不可見如是
- 21 自相不可得故又別業用不可見故応知所
- 22 計我非実有問若如是我於内外等都不可
- 23 得亦不可見何故出家諸外道等亦得亦見
- 24 由此因縁愛樂顯示建立実有答不得不見

(第11紙) T30p659a28~

- 1 但由身見及与我慢為依止故起邪分別起
- 2 邪計度不如正理愛樂顯示建立為有云何
- 3 知我非実有故非現有故而不可得亦不可
- 4 見謂諸計我為実有者遠極彼岸不過四
- 5 種一者計我即是諸蘊二者計我異於諸
- 6 蘊住諸蘊中二者計我非即諸蘊而異諸
- 7 蘊非住蘊中而住異蘊離蘊法中四者計我
- 8 非即諸蘊而異諸蘊非住蘊中亦不住於異
- 9 於諸蘊離蘊法中而^无有蘊一初蘊法都不
- 10 相応依我分別計為有者皆撰在此四種計
- 11 中除此更無若過若增如是一切我実有性
- 12 皆不応理何以故若計有我即是諸蘊非異

⁶ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

⁵ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

⁴ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

³ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

- 13 蘊者是則此我但於諸蘊而假建立斯過自
- 14 至所以者何諸蘊無常各与自相而共相応
- 15 我即彼故非常非一非実有性是故此計不
- 16 応道理若計有我異諸蘊者此所計我為是
- 17 无¹³常為是常邪¹⁴若无¹⁵常者則所計我刹那刹
- 18 那異起異滅此処異死余処異生異作異受
- 19 斯過自至又異諸蘊別有一我若内若外若二
- 20 中間有生有滅都不可得是故此計不応道理
- 21 若我常者无¹⁶有變異是其常相此所計我若无¹⁷
- 22 變異二因縁變皆不応理非於当来亦非現
- 23 法若於当来我无¹⁸變者便応无¹⁹生无²⁰老无²¹病无²²
- 24 死无²³損亦復不応一時為天一時為人或為傍

(第四紙) T30p659b24~

- 1 生或為鬼趣或時為彼那落迦等於現法中
- 2 我若不變便応於彼愛非愛等種種境界无²⁴
- 3 樂无²⁵苦无²⁶愛无²⁷恚亦无²⁸有癡略説不応由苦
- 4 樂等之所變異不応隨一貪等煩惱及隨煩
- 5 惱之所變異如是我於当来現法无²⁹變異故
- 6 不応為樂之所饒益亦不応為属彼煩惱之所
- 7 染汚不応因此行法非法不応為苦之所
- 8 損害亦不応為属彼煩惱之所染汚不応因
- 9 此行法非法此我如是於現法中与法非法不
- 10 相応故於当来世愛非愛身无³⁰因縁故応不

- 13 无¹³無【大】 大正蔵に校注なし。
- 14 邪¹⁴耶【大】 大正蔵に校注なし。
- 15 无¹⁵無【大】 大正蔵に校注なし。
- 16 无¹⁶無【大】 大正蔵に校注なし。
- 17 无¹⁷無【大】 大正蔵に校注なし。
- 18 无¹⁸無【大】 大正蔵に校注なし。
- 19 无¹⁹無【大】 大正蔵に校注なし。
- 20 无²⁰無【大】 大正蔵に校注なし。
- 21 无²¹無【大】 大正蔵に校注なし。
- 22 无²²無【大】 大正蔵に校注なし。
- 23 无²³無【大】 大正蔵に校注なし。
- 24 无²⁴無【大】 大正蔵に校注なし。
- 25 无²⁵無【大】 大正蔵に校注なし。
- 26 无²⁶無【大】 大正蔵に校注なし。
- 27 无²⁷無【大】 大正蔵に校注なし。
- 28 无²⁸無【大】 大正蔵に校注なし。
- 29 无²⁹無【大】 大正蔵に校注なし。

- 11 得生由此道理汝心不計此常住我由別內
- 12 身變異所作於當來世生老死等種種變異
- 13 如是此我便³²无³¹各別內身生老病死等時樂
- 14 時苦時及染汚時則心畢竟解脫清淨是故
- 15 此計不心道理
- 16 復次若計有我異於諸蘊住異諸蘊離蘊法
- 17 中者彼所計法遠離諸蘊有之自相尚不可
- 18 得何況為我之所安住譬如有言我審了知
- 19 石女兒頂繫空³³花³²鬘³³心知此計亦復如是是
- 20 故此計不心道理³³
- 21 復次若計有我一切蘊法不相心故³⁴无³⁴有蘊
- 22 者此所計我若³⁵无³⁵有蘊便³⁶无³⁶有色非身相心
- 23 亦非苦樂等受相心亦非衆多種種差別諸
- 24 想相心亦非善不善³⁷无³⁷記思等相心亦非受

(第五紙) T30p659c21 ~

- 1 用色等境界分別意相心如是此我心³⁸无³⁸所
- 2 依³⁹无³⁹受⁴⁰无⁴⁰想⁴¹无⁴¹思慮等亦⁴²无⁴²分別是則此我
- 3 不由功用究竟解脫⁴³无⁴³有染汚是故此計不
- 4 心道理
- 5 復次由彼一切依我分別妄所計我不成就
- 6 故當知我等於諸蘊中但假建立非實有物
- 7 由我非有唯有蘊故一切雜染清淨道理皆
- 8 得成就謂有內外諸處生故於現法中起⁴⁴无⁴⁴
- 9 明觸由此於身便有饒益損減受生由此為緣

30 无³⁰无³⁰【大】 大正藏に校注なし。
 31 无³¹无³¹【大】 大正藏に校注なし。
 32 花³²【大】 大正藏に校注なし。
 33 現³³理³³【大】 大正藏に校注なし。
 34 无³⁴无³⁴【大】 大正藏に校注なし。
 35 无³⁵无³⁵【大】 大正藏に校注なし。
 36 无³⁶无³⁶【大】 大正藏に校注なし。
 37 无³⁷无³⁷【大】 大正藏に校注なし。
 38 无³⁸无³⁸【大】 大正藏に校注なし。
 39 无³⁹无³⁹【大】 大正藏に校注なし。
 40 无⁴⁰无⁴⁰【大】 大正藏に校注なし。
 41 无⁴¹无⁴¹【大】 大正藏に校注なし。
 42 无⁴²无⁴²【大】 大正藏に校注なし。
 43 无⁴³无⁴³【大】 大正藏に校注なし。
 44 无⁴⁴无⁴⁴【大】 大正藏に校注なし。

- 10 發起和合乖離等愛及有依此一切煩惱隨煩
- 11 惱轉為此義故淨不淨業生起可得如是煩
- 12 惱業生起故當來後有生老死等一切苦法
- 13 皆悉得生如是且於无常蘊中无實我故雜
- 14 染道理皆得成就又由他音內正作意為因
- 15 緣故遠離无明發起於明由无癡故了
- 16 達諸受皆悉是苦由此能斷於諸受中所
- 17 有貪愛及斷依此一切煩惱若隨煩惱由此
- 18 因緣能感後有淨不淨業不復生起如是由
- 19 業煩惱斷故一切後有及生等苦永更不生
- 20 如是无我唯有蘊故一切雜染清淨道理皆
- 21 得成就
- 22 復次此中仮立一切有情所謂无足一足四
- 23 足多足有色无色有想无想非想非非想処
- 24 有情當知如是九種有情略由三種因緣建

(第六紙) T30p660a17~

- 1 立摠撰一切有情之類謂依往來身動差別
- 2 建立无足乃至多足有情依身差別建立有
- 3 色无色有情依心差別建立有想无想非想
- 4 非非想処有情
- 5 復有離繫出家外道作如是說一切樹等皆
- 6 悉有命見彼與內有命數法同增長故応告
- 7 彼言汝何所欲樹等增長為命為因為更有
- 8 余增長因邪若彼唯用命為因者彼未捨命
- 9 而於一時无有增長不応道理若更有余增

45 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 46 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 47 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 48 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 49 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 50 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 51 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 52 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 53 摠||總【大】 大正蔵に校注なし。
 54 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 55 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 56 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 57 邪||耶【大】 大正蔵に校注なし。
 58 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

- 10 長因者彼雖无²⁰命由自因緣亦得增長故不
- 11 應理又應告彼汝何所欲諸无²⁰命物无²⁰有增
- 12 長為有說因為无²⁰說因若有說因此說因緣
- 13 不可得故不應道理若无²⁰說因无²⁰因而說而
- 14 必爾者不應道理又應告彼汝何所欲
- 15 諸樹等物与有命物為一向相似為不一向
- 16 相似若言一向相似者諸樹等物根
- 17 下入地上分增長不能自然搖動其身雖
- 18 与語言而不報答曾不見有善惡業轉斷
- 19 枝條已余处更生不應道理若言不一向相
- 20 似者是則由相似故可有壽命不相似故无²¹
- 21 无²¹壽命不應道理如是增長余因有²¹有故
- 22 无²²壽命物不增長說因有²²有故相似一向
- 23 不一向故此所計度不應道理
- 24 問何緣故知色香味触如是如是別安立中

(第七紙) T30p660b13~

- 1 飲食車乘瓶盆衣服莊嚴具等諸想事物皆
- 2 是假有答由彼想物或於是处色等想物聚
- 3 中而轉或於是处色等想物聚中不轉若於
- 4 是处色等想聚有食想轉非於是处飲等想
- 5 轉若於是处車乘想轉非於是处衣等想轉
- 6 如是所余乃至広說諸假有想若轉不轉当
- 7 知亦爾一切色香味触想事遍於一切飲食
- 8 車乘瓶盆衣服莊嚴具等諸想事中⁸差別
- 9 轉是故当知飲食車乘瓶盆衣服莊嚴具等
- 10 皆是假有色香味触是実物有
- 11 復次依諸有法立假想物非一衆多種種品

59 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 60 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 61 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 62 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 63 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 64 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 65 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 66 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 67 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 68 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 69 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

- 12 類当知略說⁷⁰摠有二種一依止一聚二依止
- 13 非一聚各別飲食車乘衣服莊嚴具等名依
- 14 止一聚諸採畫⁷¹業彫素等業宅舍宮殿軍林
- 15 等物名依止非一聚

- 16 復次云何有色諸法謂若略說有十色処及
- 17 法処所撰色由彼諸色具色自相即以此事
- 18 還說此事是故說名有色諸法此有色法由
- 19 五種相差別建立何等為五一事故二自相
- 20 故三共相故四界故五業故此中諸所有色
- 21 彼一切若四大種若四大種所造應知是名
- 22 略撰色事除此更无⁷²若過若增諸色自相復
- 23 有三種一清淨色二清淨所取色三意所取
- 24 色謂四大種所造五識所依五清淨色眼等

(第八紙) T30p660c08~

- 1 処撰名清淨色色等⁷³五境同分清淨色之境
- 2 界名清淨所取色若与識俱諸清淨色与識
- 3 同境故名同分若離於識諸清淨色前後
- 4 自類相統而轉名彼同分色三摩地所行影
- 5 像等色名意所取色諸色共相亦有三種謂
- 6 一切色若據方処各別安立若可宣說方処
- 7 差別名初共相又一切色若清淨若清淨所
- 8 取增減相当知是名第二共相又即此一切
- 9 色若触所触即便變壞或以手足塊刀杖等
- 10 或由寒熱飢渴蚊虻風日蛇蠍諸触所触即
- 11 便變壞当知是名第三共相若由定地色
- 12 愛諸業之所生起名色行色若不定地色愛
- 13 諸業之所生起名欲行色如是諸色由界差
- 14 別略有二種无⁷⁴色界中无⁷⁵如是色又前所說
- 15 諸色共相謂触所触即便變壞如是共相非
- 16 一切遍除欲界天遍余一切欲界天中所有

⁷⁰ 摠||總【大】 大正藏に校注なし。
⁷¹ 採畫||彩畫【大】 大正藏に校注なし。
⁷² 无||無【大】 大正藏に校注なし。
⁷³ 【等】+【大】 大正藏に校注なし。
⁷⁴ 无||無【大】 大正藏に校注なし。
⁷⁵ 无||無【大】 大正藏に校注なし。

- 17 諸色但有手足塊刀杖等所觸變壞⁷⁶无⁷⁶有寒
- 18 熱飢渴等觸之所變壞由彼天中諸飲食等
- 19 衆資生具隨欲所生則便成辨⁷⁷是故於彼雖
- 20 有飢渴不為損害色界諸色⁷⁸无⁷⁸有手足塊刀
- 21 杖等所觸損壞亦⁷⁹无⁷⁹余触之所損壞若善不
- 22 善⁸⁰无⁸⁰記身業語業是名業色当知是名色
- 23 業差別⁸¹无⁸¹色諸法亦由五相差別建立与此
- 24 相違⁸²应知其相

(第九紙) T30p661a03~

- 1 復次略由二種色聚建立諸聚一不共大種
- 2 聚二非不共大種聚不共大種聚者謂於此
- 3 中唯一一類大種可得非不共大種聚者謂
- 4 於此中有二大種或多大種種類可得又於
- 5 不共大種聚中極微已上諸大種合当知方
- 6 有相雜不相離諸大種色⁸³无⁸³有一处不相離
- 7 諸大種色於非不共大種聚中大種極微如
- 8 所造色与余大種当知亦有同一处所不相
- 9 離者然彼大種非所造色⁸⁴互不相依而得轉
- 10 故各有功能據別处故又一处不相離者謂
- 11 諸大種及所造色同住一处如置一篋青黃
- 12 赤白有光明珠種種光明互不相離相雜不
- 13 相離者所有譬喻如前⁸⁵应知又若有聚或麻
- 14 豆等或細沙等為諸膠蜜及沙糖等之所撰
- 15 持当知此非一处不相離亦非相雜不相離
- 16 但是和合不相離多聚聚集非一聚相当知
- 17 所余是一聚相又相雜不相離当知依止一
- 18 处不相離此若不爾不⁸⁶应道理
- 19 復次由五種相建立有見諸法差別何等為
- 20 五謂顯色故形色故表色故眼境界故眼識
- 21 所緣故亦由五相建立⁸⁷无⁸⁷見諸法差別与上

76 无⁷⁶無【大】 大正藏に校注なし。
 77 辨⁷⁷無【大】 大正藏に校注なし。
 78 无⁷⁸無【大】 大正藏に校注なし。
 79 无⁷⁹無【大】 大正藏に校注なし。
 80 无⁸⁰無【大】 大正藏に校注なし。
 81 无⁸¹無【大】 大正藏に校注なし。
 82 无⁸²無【大】 大正藏に校注なし。

22 相違応知其相

23 復次由五種相建立有対諸法差別何等為

24 五一各據別処而安住故二於余色聚容受

(第十紙) T30p661a28~

1 往來等業為障礙故三為手足塊刀杖等所

2 觸便變壞故四一切皆為諸清淨色之所取

3 故五一切皆為依清淨色識所緣故亦由

4 五相建立无96対諸法差別与上相違応知其相

5 復次即由五相応知建立无95見无96対諸法差別

6 別何等為五一因緣故二據処所故三顯現

7 故四无93變異故五所緣故謂具威德三摩地

8 俱諸色勝解当知是名无98見无99対色生因緣彼

9 既生已処所可得是故名色雖不与彼十有

10 色処自相相応然得似彼自性顯現於余色

11 聚容受往來等業非障礙住又非一切清淨

12 之色及依彼識所取境界亦非所緣是故説名

13 名无96見无95対手足等觸不能損壞是故説名

14 无96有變異又根本定名具威德三摩地此色

15 是彼所緣非余譬如非一切心皆能變化若

16 所有心具大威德方能成辨93非所余心此亦

17 如是要具威德極靜定心方能為緣生此无914

18 見无95対諸色此如化色亦非不具大威德心

19 及不定心所緣境界但是彼心所緣境界是

20 名与上五相相違当知建立无96見无97対諸法

83 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

84 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

85 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

86 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

87 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

88 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

89 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

90 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

91 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

92 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

93 辨||辦【大】 大正蔵に校注なし。

94 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

95 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

96 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

22 差別

23 復次由五相故建立有漏諸法差別何等為

24 五謂由事故睡眠故相応故所縁故生起故

(第十一紙) T30p661b23~

- 1 云何有漏法事謂清淨内色及彼相依不相
- 2 依外色若諸染汚心心所若善⁹⁷无⁹⁸記心心所
- 3 等此有漏事隨其所応由余四相說名有漏
- 4 謂睡眠故相応故所縁故生起故若於清淨諸
- 5 色及於如前所說一切心心所中煩惱種子未
- 6 害未断說名睡眠亦名鈍重若彼乃至未⁹⁹无⁹⁹
- 7 余断当知一切由睡眠故說名有漏若諸染
- 8 汚心心所由相応故說名有漏若諸有事若
- 9 現量所行若有漏所生增上所起如是一切漏
- 10 所縁故名為有漏此中現在名為有事過
- 11 去未來名非有事若依清淨色識所行名現
- 12 量所行若余所行当知名非現量所行若内
- 13 諸処増上生起一切外処名有漏所生増上
- 14 所起唯彼所縁当知有漏所以者何若縁去
- 15 来起諸煩惱過去未來非有事故不由所縁
- 16 說名有漏若現在事非現量所行如清淨色
- 17 及一切染汚善¹⁰⁰无¹⁰⁰記心心所彼亦非煩惱所
- 18 縁故說名有漏但由自分別所起相起諸煩
- 19 惱非彼諸法為此分明所行境故由生起故
- 20 成有漏者謂諸睡眠未永断故順煩惱境現
- 21 在前故於彼現起不如理作意故由此因縁
- 22 諸所有法正生已生或復当生如是一切由
- 23 生起故說名有漏又從一切不善煩惱諸異
- 24 熟果及異熟果増上所引外事生起如是一

(第十一紙) T30p661c19~

1 切亦生起故說名有漏又由无¹⁰¹記色无¹⁰²色繫

⁹⁷ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

⁹⁸ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

⁹⁹ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

¹⁰⁰ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

¹⁰¹ 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

- 2 一切煩惱於彼続生彼所続生亦生起故説
- 3 名有漏如是名為由五相故建立有漏諸法
- 4 差別謂由事故随眠故相応故所縁故生起
- 5 故
- 6 復次由五相故建立¹¹⁰³无漏諸法差別何等為
- 7 五一有諸法離諸纏故説名¹¹⁰⁴无漏謂一切善
- 8 ¹¹⁰⁵无記心¹¹⁰⁶心所依所縁諸色及善¹¹⁰⁷无記諸心
- 9 心所二有諸法随眠断故説名¹¹⁰⁸无漏謂已永
- 10 断見脩¹¹⁰⁹所断一切煩惱所有諸善及一分¹¹¹⁰无
- 11 記造色若諸¹¹¹¹无記若世間善諸心所三有諸
- 12 法由断滅故説名¹¹¹²无漏謂一切染汚心所彼
- 13 不転故説名¹¹¹³无漏由彼不転頭了涅槃即此
- 14 涅槃説名¹¹¹⁴无漏四有諸法是見所断断对治
- 15 故自性解脱故説名¹¹¹⁵无漏謂一切見道五有
- 16 諸法是¹¹¹⁶脩所断断对治故自性相続解脱故
- 17 謂出世間一切¹¹¹⁷脩道及¹¹¹⁸无学道当知是名由
- 18 五相故建立¹¹¹⁹无漏諸法差別
- 19 復次由五相故建立有諍諸法差別何等為
- 20 五謂由事故因縁故自性故助伴故等起故
- 21 此中五取蘊名有諍法事若愛味染着愛味
- 22 耽嗜名諍因縁若¹¹²⁰无常性苦性變壞法性名
- 23 有諍自性即於此諍¹¹²¹无智愚癡名諍助伴
- 24 由此因縁五黒品転名為等起謂闕¹¹²²調違

102 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

103 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

104 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

105 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

106 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

107 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

108 脩||脩【大】 大正蔵に校注なし。

109 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

110 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

111 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

112 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

113 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

114 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

115 脩||脩【大】 大正蔵に校注なし。

116 脩||脩【大】 大正蔵に校注なし。

117 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

118 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

119 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

120 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

(第十一紙) T30p662a14~

- 1 諍耽着諸欲諸見所生或余種類是初黑
- 2 品若隨所有諸煩惱纏¹²¹无¹²²有羞恥多安住性
- 3 是第二黑品若有沙門或婆羅門違逆正道
- 4 所欲苦行及余信解自餓投火墜高巖等
- 5 是第三黑品若有現行身語及意一切惡行是
- 6 第四黑品欣樂後有是第五黑品此中最初
- 7 由生怨恨發憤心故不安隱住第二由諸煩
- 8 惱內燒然故不安隱住第三由自誓願虛受
- 9 劬勞¹²³无¹²⁴義苦故不安隱住第四生惡趣故不
- 10 安隱住第五生老死等衆苦合故不安隱住
- 11 此中五取蘊有諍事与諍自性及彼因緣助
- 12 伴等起共相依故名有諍法又由五相建立¹²⁴无¹²⁵
- 13 諍諸法差別与上相違応知其相此中五¹²⁵无¹²⁶
- 14 取蘊¹²⁶无¹²⁷諍事由諍自性及彼因緣助伴等起
- 15 於彼法中不可得故名¹²⁷无¹²⁸諍法
- 16 復次由五相故建立有染諸法差別何等為
- 17 五謂事故因緣故等如前広説五相差別
- 18 此中事者謂即五有取蘊因緣者謂即此中
- 19 喜樂愛味諸因緣法自性者謂此為緣生起
- 20 喜樂愛味所撰助伴者謂於愛味所有貪
- 21 着等起者謂五黑品如前応知五取蘊事由
- 22 与有染及彼因緣乃至等起共相依故説名
- 23 有染又由五相建立¹²⁸无¹²⁹染諸法差別与上相
- 24 違応知其相如前¹²⁹无¹³⁰諍隨応当説

(第十四紙) T30p662b10~

- 1 復次由五相故応知建立依止耽嗜諸法差

121 調||訟【大】 大正蔵に校注なし。
 122 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 123 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 124 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 125 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 126 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 127 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 128 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 129 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

- 2 別何等為五謂事故因緣故等如前広説
- 3 此中事者謂欲界繫諸五取蘊因緣者謂順欲
- 4 貪五種妙欲自性者謂貪嗜者由彼為緣由
- 5 彼為境所有欲貪助伴者謂不如理作意相
- 6 応邪願諸欲分別由与此俱名分別貪等起
- 7 者謂五種異品如前広説彼欲界繫五取蘊
- 8 事由彼貪嗜因緣助伴及与等起所撰受故
- 9 説名依止耽嗜諸法又由五相当知建立依
- 10 止出離諸法差別与上相違応知其相
- 11 復次由五相故建立世間諸法差別何等為
- 12 五一切清淨色及清淨所取色世間二一切
- 13 染汚心、心所世間三一切无¹³⁰。記心、心所世間四
- 14 一切善心、心所若当断若已断世間五一切世
- 15 間三摩地所行无¹³¹。見无¹³²。对色世間又由五相建
- 16 立出世諸法差別何等為五一見道所断对
- 17 治二脩¹³³。道所断对治三由想解脱之所解脱謂
- 18 諸声聞獨覺菩薩已入无¹³⁴。戲論理慧及彼相
- 19 応諸心、心所四彼所縁无¹³⁵。見无¹³⁶。对色五一分
- 20 所治解脱之所解脱謂諸有学若一切所治
- 21 解脱之所解脱謂諸无¹³⁷。学
- 22 復次依五種世間即彼世間名墮諸法謂有
- 23 情世間器世間欲世間色世間无¹³⁸。色世間当

(第十五紙) T30p662c05~

- 1 知是名五種世間又出世法不墮如是五種
- 2 世間は故説名不墮諸法
- 3 復次由五相故建立有為諸法差別何等為
- 4 五一後際未生故二前際已滅故三中際目
- 5 相安住故四因縁相続故五果相続故又由

130 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 131 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 132 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 133 脩||脩【大】 大正蔵に校注なし。
 134 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 135 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 136 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 137 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 138 无||無【大】 大正蔵に校注なし。

- 6 五相建立¹³⁸无¹³⁸為諸法差別何等為五謂与上
- 7 相違応知即是此中五相滅有為法證得涅
- 8 槃若謂涅槃為有異者当知此為不如理
- 9 問不如理答不如理思如是若謂为¹³⁹无¹³⁹異
- 10 者有¹⁴⁰无¹⁴⁰異者非有非¹⁴¹无¹⁴¹異者当知皆是不
- 11 如理問不如理答不如理思何以故由彼涅
- 12 槃唯有為滅之所顯故与有為法其相異故
- 13 唯有為滅之所顯故謂有異者若問若答
- 14 若思便為戲論非所戲論与有為法其相
- 15 異故謂¹⁴²无¹⁴²異者如前広説便為戲論非所
- 16 戲論¹⁴³捨¹⁴³如前説二種因故亦異不異不応道
- 17 理由有為滅證涅槃故若謂一切皆¹⁴⁴无¹⁴⁴所有
- 18 故説非有非¹⁴⁵无¹⁴⁵異者不応道理涅槃義者謂
- 19 一切白法所顯發故涅槃相者謂寂滅相¹⁴⁶无¹⁴⁶
- 20 戲論相当知唯是内所證相
- 21 復次由五相故建立所縁諸法差別何等為
- 22 五一有善作意所縁法二有不善作意所縁
- 23 法三有¹⁴⁷无¹⁴⁷記作意所縁法四有墮界作意所
- 24 縁法五有繫属瑜伽作意所縁法此中若善

(第十六紙) T30p662c29~

- 1 作意縁善不善¹⁴⁸无¹⁴⁸記諸法如善作意如是不可
- 2 善¹⁴⁹无¹⁴⁹記作意当知亦爾欲界繫善染汚¹⁵⁰无¹⁵⁰記
- 3 作意縁一切三界諸法¹⁵¹无¹⁵¹色界中若定若生
- 4 亦縁一切三界諸法¹⁵²无¹⁵²色界中若定若生
- 5 外道異生¹⁵³无¹⁵³色界繫善作意唯縁自地一

139 无¹³⁹無¹³⁹【大】 大正蔵に校注なし。

140 无¹⁴⁰無¹⁴⁰【大】 大正蔵に校注なし。

141 无¹⁴¹無¹⁴¹【大】 大正蔵に校注なし。

142 无¹⁴²無¹⁴²【大】 大正蔵に校注なし。

143 无¹⁴³無¹⁴³【大】 大正蔵に校注なし。

144 捨¹⁴⁴總¹⁴⁴【大】 大正蔵に校注なし。

145 无¹⁴⁵無¹⁴⁵【大】 大正蔵に校注なし。

146 无¹⁴⁶無¹⁴⁶【大】 大正蔵に校注なし。

147 无¹⁴⁷無¹⁴⁷【大】 大正蔵に校注なし。

148 无¹⁴⁸無¹⁴⁸【大】 大正蔵に校注なし。

149 无¹⁴⁹無¹⁴⁹【大】 大正蔵に校注なし。

150 无¹⁵⁰無¹⁵⁰【大】 大正蔵に校注なし。

151 无¹⁵¹無¹⁵¹【大】 大正蔵に校注なし。

152 无¹⁵²無¹⁵²【大】 大正蔵に校注なし。

- 6 切法非下地若毘鉢舍那行菩薩未得自在
- 7 及有広慧声聞乘等若諸有学若阿羅漢彼
- 8 无¹⁵²色界繫善作意亦縁下地一切法若諸菩
- 9 薩已得自在決定不於无¹⁵³色界生由觀於彼
- 10 不能現起利衆生事因此成熟広大仏法及
- 11 能成熟利益有情行故当知是名隨界作意
- 12 所縁諸法復次因思所縁如説
- 13 名映於一切 无¹⁵⁴有過名者 由此名一法 皆隨自在行
- 14 此言有何義謂若略説觀察清淨因故觀察
- 15 自相故觀察雜染因故又為顯示補特伽羅
- 16 无¹⁵⁵我及法无¹⁵⁶我故此中顯示補特伽羅无¹⁵⁷我
- 17 者謂善了知四无¹⁵⁸色蘊能断一切自境界相
- 18 是故説名能映一切顯示法无¹⁵⁹我者謂善了
- 19 知遍計所執自性善了知世俗言名能除一
- 20 切彼所依相是故説名能映一切若過如是
- 21 四无¹⁶⁰色蘊諸我相事定不可得若過世俗言
- 22 名遍計所執自性相事亦不可得若於此二
- 23 不善了知則便一切自境界相及諸雜染生
- 24 起隨轉一切境相及諸雜染皆彼増上力所

(第十七紙) T30p663a25~

- 1 生故又仏世尊依此密意説如是言
- 2 執法自性故 執我性而轉 覺此故覺彼 由覺故還滅
- 3 繫属瑜伽作意略有四種所縁一遍滿所縁
- 4 二淨行所縁三善巧所縁四淨煩惱所縁¹⁶³縁是
- 5 諸所縁如声聞地広辯応知此中淨煩惱所
- 6 縁者謂世尊説四聖諦及真如
- 7

153 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 154 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 155 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 156 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 157 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 158 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 159 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 160 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 161 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 162 无||無【大】 大正蔵に校注なし。
 163 所||今【大】 大正蔵に校注なし。

8 瑜伽師地論卷第六十五

9 皇后藤原氏光明子奉為

10 尊孝贈正一位太政大臣府君尊妣贈

11 從一位橘氏太夫人敬写一切經論及律

12 莊嚴既了伏願憑斯勝因奉資冥

13 助永庇菩提之樹長遊般若之津又

14 願上奉 聖朝恒延福寿下及

15 寮采共盡忠節又光明子自發誓

16 言弘濟沈淪勤除煩障妙窮諸法早

17 契菩提乃至伝灯無窮流布天下聞

18 名持卷獲福消災一切迷方会帰覺

19 路

天平十二年五月一日記

20

21

22

23

24

(後補軸付紙)

大正八年十一月修理之

帝室博物館總長(医学博士/文学博士) 森林太郎(花押)

董事奈良帝室博物館長久保田鼎(花押)

(第十七紙紙背)

□□錦減□ 十二月十五□

二校□